



コース
11

面構えが面白い七切のまちをめぐる

オススメ

建物に刻まれた歴史や文化を見抜ける人!!



- スタート
↓540m
 - ①池之堂の山車蔵
↓470m
 - ②清正公社
↓200m
 - ③高屋敷の山車蔵
↓120m
 - ④市神社
↓240m
 - ⑤北町の山車蔵
↓130m
 - ⑥米之座の山車蔵
↓120m
 - ⑦良王神社
↓190m
 - ⑧布屋町の山車蔵
↓100m
 - ⑨麩屋町の山車蔵
↓270m
 - ⑩観光交流センター
ゴール
- 全長約 2380 m

津島では江戸時代、本町筋沿いの旧家を町方（まちかた）、周辺を中心に住んだ新興町人を地方（じかた）と呼びました。町方は尾張津島天王祭を担い、地方は現在の尾張津島秋まつりにつながるそれぞれの祭を担いました。このコースは七切祭を出す七切のまち（池町（池之堂）、高屋敷、北町、米之座、布屋町、麩屋町、小之座の7つ）をめぐり、地域の誇りを感じる旅です。

⑦ 良王神社



小路わきにひっそりとたたずむ良王神社は、後醍醐天皇の曾孫良王君を祀ると伝われます。

⑧ 布屋町の山車蔵



津島市天王通り四丁目（旧布屋町）にある布屋町車の山車蔵です。山車のからくりは「恵比寿と大黒天」。恵比寿が鯛を釣り、大黒天が打出の小槌を振ると、前方に置かれた宝袋から宝船が現れる、おめでたいからくりです。

① 池之堂の山車蔵



津島市池之堂町にある池之堂車の山車蔵です。山車は池町車とも呼ばれています。山車のからくりは「倒立唐子遊」。唐子が逆立ちをして、撥で鉦を打ち鳴らします。現在の蓮台からくり人形は竹田藤吉が寛政6年（1794）に製作したものです。

③ 高屋敷の山車蔵



津島市高屋敷町にある高屋敷車の山車蔵です。山車のからくりは「唐子の面かぶり」。上段前方のチャップを持つ唐子が狸々のお面を瞬時に着けるところが見所です。前人形は神官人形で御幣を振りながら時々舌を出すので「べ口出し」と呼ばれています。

蔵の向かいに車切の跡

⑤ 北町の山車蔵



津島市北町にある北町車の山車蔵です。山車のからくりは三休の唐子と御幣振り人形による「唐子遊」。回転ハンドルを回して、蓮台をせり上げる唐子と撥で太鼓を叩く唐子、チャップ鳴らしの唐子がそれぞれ置かれています。チャップ鳴らしの唐子は、太鼓に合わせてチャップを鳴らします。

⑨ 麩屋町の山車蔵



津島市池之堂町（旧麩屋町）にある麩屋町車の山車蔵です。山車のからくりは「湯取神子」。両手に釜を持った神子人形が釜の前に移動して、お湯を釜でまき散らす湯立神事を行うと、釜から湯に見立てた紙ふぶきがわき上がります。

② 清正公社



清正公社は加藤清正を祀っています。幼少の清正が住んでいた叔父の家があった場所に明治18年、社が建てられました。幼少の清正が鬼の面を被って盗人を退治した武勇伝から、鬼の面を被って練り歩く「鬼祭」が伝わります。

④ 市神社



市神社は七切のまちの産土神であり、かつての街道筋に位置し、商売繁盛や豊作にご利益があるとされました。秋祭りの際に七切の山車が集まります。

⑥ 米之座の山車蔵



津島市米之座町にある米之座車の山車蔵です。山車のからくりは「高砂と神官」。舞ながら左右に移動する神官が上半身を後ろに倒し身体が沈むと、宝船（蒲船）へと早変わりします。しばらくすると再び船から神官にまた戻ります。神官人形は明治20年（1887）五代目玉屋庄兵衛の作です。

⑩ 観光交流センター



昭和4（1929）年に建てられた鉄筋コンクリート造2階建の銀行建築です。
【休館日】
月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日

作成：小路めぐりマップ策定部
フジモリミキヒト ヤガミシンスケ
宇佐見章江 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三
岩崎勝明 橋本建夫